

ろうさん彩登

サイ ト

埼玉県勤労者山岳連盟

機関紙：発行責任者 **武笠真次**
編集 **小松勝浩**

〒330-0063
さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階
TEL・FAX 048-838-0640

<http://www.tozans.justhpbs.jp/>

7号目次

P1	県連の動き
P3	登山学校「天気の見方」参加報告
P7	中部ブロック「読図山行」参加報告
P8	南部ブロック交流ハイク参加報告
P9	石巻災害支援参加報告
P10	安全登山講演会報告

「天気の見方」 講演会のお知らせ

「天気の見方」2014/01/26

東大宮コミュニティーセンター 会議室

13:00受付13:15開始 入場料¥500円

講師 猪熊 隆之氏(山岳気象予報士)

県連の動き

委員会活動報告

全国連盟活動

新特別基金16件審査(大宮の2件は来月)11/28役員選考会
1/25 雪崩講習会 天神平・白毛門(宿泊:土合山の家¥22,000)

県連全体活動

11/24安全登山講習会(於:高鼻コミセン)参加62名(男女同数)
新座12、三郷6、ピスターリ7、大宮7、ヤ林3、ハジ3、熊ト3、峠7、上里3、北本2、熊サ1、ワビ2、秩父アルパン1

事務局

会員数をご報告いただく時期となりました。所定の様式により、10月末現在の会員数を、12月20日(金)までにご報告をお願いいたします。また、加盟団体調査表につきましても、あわせて提出をお願いいたします。

全国連盟より、栄誉功労賞の申請について案内がありました。申請書を各会宛送信いたしました。永年会員章については、所属する団体からの申請となりますので、該当の方がいらっしゃいましたら申請してみたいかがでしょうか

機関紙

11/13第6号発行 記事・登山学校、岩ネット、理事会

ホームページ

11/10救助隊役員会/岩ネット参加報告/救助隊訓練報告掲載
HPの表紙を変えている。

女性

2014.02.02「緊急対応」(ツェルトの使い方など)講師・救助隊
定員15名 ¥500 〆切12/25 チラシHP掲載

ハイキング

2014/1/26ハイキング講習会「天気の見方」講師・猪熊隆之氏
東大宮コミセン 13:15開演 ¥500 定員60名

チラシ・参加申込書、各会に配信。

11/27ハイキング委員会 次回理事会12/25の前予定

委員会活動報告

自然保護

10/15～16 石巻災害支援 19名参加報告。 カキの殻にホヤの種付け手伝い。 民宿泊(料理に舌鼓)。 多くの参加者感動。 感想HPに掲載。 来3/15～16災害支援実施予定(ワカメ収穫の手伝い)

遭難防止・安全教育

11/24 安全登山講習会 62名参加。 県連活動で報告。
・12/2 雪上訓練机上 12/8実地訓練(谷川岳西黒尾根)

財 政

会費の未納の会 2、他会は済み ・カレンダー220部購入

登山学校

「天気の見方」(机上:カルタスホール実技:赤城山・鈴ヶ岳)
11/09 机上 受講者 26名、単科受講者 1名、運営委員 11名
11/10 実技 受講者 25名、単科受講者 1名、運営委員 8名
「12/7～8は総合講座 荒船山・鍬柄山(裏妙義国民宿舎泊)

救 助 隊

11/5 役員会
11/10 岩場搬出訓練 岳陵岩

岩ネット

11/16(土)日和田山にて実施 15名参加
次回:12/14日(土)日和田山 予定

ブロック活動報告

西部=11/17 交流ハイク(飯能河原・鍋交流)参加84名 12/12ブロック会議
南部=12/1 忘年交流バスハイク(上州崇台山)参加26名
中部=11/16地図読みハイク(御正体山)参加13名
北部=ブロック会議 特になし

加盟団体活動報告

特になし

日本勤労者山岳連盟2014年カレンダー申込み
受付中加盟所属会にお申し込み下さい。残り10部

2014年カレンダー写真



第21回関東ブロック

「雪崩事故を防ぐための講習会」ご案内

主催 日本勤労者山岳連盟

関東ブロック協議会

実施要項

日 時 2014年1月25日(土)

9時～1月26日(日)14時

場 所 谷川岳天神平及び

白毛門登山口・土合山の家周辺

登山学校

第6回『天気の見方』 第18期登山学校受講生 小林 和文 記

【11月9日】<机上講習>

机上講習では、プロジェクターを活用した解りやすい資料をベースに駒崎講師の解説で講座が進められました。学校を卒業して以来といっても過言でないくらい久しぶりに天気図をしっかりと勉強しました。日常生活で天気といえば降水確率や気温といった予報での親しみはありましたが、天気記号や天気の用語など改めて聞くと日常生活で意識する事の少ない事ばかりで、とても勉強になりました。特に気圧や気団・前線といった仕組みや特性については、登山を計画する上でも大切な要素となる事として学習できたと思います。

午後からは、観天望気の講習としてさまざまな雲の種類について学習しましたが、簡単に区別や名前が覚えられる訳もなく、積乱雲くらいの区別しか出来る自信がありませんでした。また雲の状況など自然環境で天気の予測を行う事もとても参考になりました。

【11月10日】<実技講習>

・山行記録

9:30観光センター出発 ~ 11:00あんぶにて休憩 ~ 11:40山頂 ~ 12:20あんぶにて昼食 ~ 13:00出発 ~ 14:00登山口到着

赤城山鈴ヶ岳で実技講習を行いました。当日は一面乱層雲に覆われた天気でしたが雨は、登頂開始時は降っていませんでした。山道は、一面落ち葉に覆われていてとても綺麗な反面、石や木の根などが解りづらく歩くのに多少神経を使う事が多かったです。気候は、登山開始前は風の影響もあり肌寒く感じましたが、登山を開始すると丁度良い気候でした。あんぶに到着した時点で、多少雨が降り出したのでレインウェアを着て山行を続けました。所々で空を見上げましたが、やはり乱層雲が広がっていました。下山時になると雲の動きも解るようになり、前橋市内には雲がかかっていない様子なども確認する事が出来ました。

また、鈴ヶ岳の麓に広がる大沼と反対側にそびえ立つ黒檜山、遠くに見える榛名山はとても素敵な眺めでした。

当日の天気図にもとても気を使った事と翌日の天気図を見ながら天気の予想をしたりと講習を通して、今まで以上に天気や天気図の動きを気にかけるようになりました。



登山学校

第6回『天気の見方』 第18期登山学校受講生 大槻 哲也 記

【11月9日】9:30~15:00 机上講習(北浦和カルタスホール)

今回のテーマは「天気の見方」ということで、天気の基本と観天望気について駒崎講師から講義を受けました。

主な内容は天気図から始まって高気圧や低気圧、4つの前線、雲の種類、観天望気とそのための山の特性。「観天望気」という言葉すら初めてだった私にとってはやや難しい内容ですが、天気を知ることが「安全登山」を志すにあたって非常に重要であるという言葉もいただき、しっかり学び身につけていきたいと思いました。

「地図読み」講座であれば、手元の地図にいろいろ書き加えたり手を動かしながらの学びでしたが、今回のテーマはほぼ講義形式です。ただし、受講生用のテキストはカラーでわかりやすく、またプレゼンテーション資料はアニメーションを駆使して趣向を凝らしており、また駒崎講師の説明が非常に分かりやすく、さらに難しいところは2度3度と繰り返し説明をいただけたため、非常によかったです。

【11月10日】10:30~15:00 実技講習(赤城山 鈴ヶ岳)

今回の実技講習は貸切バスで群馬県の鈴ヶ岳へ行きました。観天望気の実技ですが、残念ながら低気圧の影響でどんよりとした雨雲だけ、いつ雨が降り出すかわからない状況です。

今回は4班にわかれ、私は2班で班長を担当。高橋講師と榎本講師の指導のもと、山頂をめざします。前日の雨の影響もあってか、登山道にある落ち葉が滑りやすく、足元を気にして慎重に登り下りすることとなり、空の雨雲を見上げるよりも下

ばかり見てしまった、というのが正直なところ。また途中で残念ながら予想通りぽつぽつと降ってきたため、最後の急登を経て山頂に着くも足早に峠までおりて昼食をとることになりました。私自身は久しぶりの山行だったため、運動不足を心配しました。しかし、アップダウンが多いもののそれほどの困難なこともなく、雨天ということを除けば快適で楽しく歩くことができました。ちなみに行き帰りのバスの中ではDVDによる講義も行われ、(眠けに負けなければ)しっかりと復習をすることができます。また那須の実技のときと同様に、下山後の温泉が取っても快適。一日楽しく

すごすことができました。雲の名前を覚えることも大事だけれども、わからなくても雲を見て、このあとの天気を予測できるようになるのは安全登山するうえで取っても大事なことです。とっても重要な言葉をいただきました。

ロープの結び方と同様、興味を持って繰り返し身につける努力が必要と思います。最後に運営委員の皆さん、受講生の皆さんお世話になりました。また次の講座でもお願いいたします。



登山学校

第6回『天気の見方』 第18期登山学校受講生 遠藤 行孝 記

【机上学習】11月9日(土)9:30~16:30 北浦和カルタスホール
 今回は天気の見方についての講座です。いつもは、TVやスマートフォンで「晴れ」「気温15度」しか見ていませんでした。何も考えずに結果だけを見ていました。今回の講座で、なぜ、高気圧・低気圧が発生し前線ができ、雲が発生するのか、観天望気を行い、より安全な山行を行うために自分で考えることの大切さを学びました。

講座では気象データの意味、天気記号の学習、高気圧・低気圧の発生と移動、前線の成り立ちを学びました。一つ一つにメカニズムがあり、休憩の度に復習を行い丁寧に教えてもらいました。次に、観天望気を学びました。雲は3層に分かれていて10種類の雲形の説明がありました。普段はポーと見ていただけの雲でしたが自分で理解できるように普段から注意しなければと感じました。その後、昔からの日常の観天望気の意味を教えてくださいました。先人の言葉にはちゃんと意味があり分かり易いものでした。最後にインターネットでの情報の入手の仕方を学びました。いろいろなサイトがあり、安全な山行の為にうまく活用して行きたいと思います。

【実技講習】11月10日(日)9:30~14:00 赤城山 鈴ヶ岳

・スケジュール 柳瀬川7:00(バス) 9:10エネルギー資料館9:30

9:35 登山口 10:32 鋤柄山 11:00 鞍部 11:15 11:47 鈴ヶ岳山頂

12:23 鞍部 12:50 13:17 鈴ヶ岳 14:03 エネルギー資料館着

・曇り一時雨

9:30 出発です。せっかくの「天気の見方」講座ですが一面の雨雲です。登山口からは狭い登りです。10分ほど登りコンパスを振りました。最近やっと振れるようになりました。毎回学習しているおかげです。鋤柄山の山頂からの下りは濡れていて滑りやすく渋滞です。鞍部につくと雨が降り出し全員雨具を着ました。鈴ヶ岳への道は岩場が多く先月の岩登りの復習をしているようでした。以前なら悩みながらコースを考えましたが、岩の小さな凸凹が見えるようになり、岩への恐怖も減り、難なくクリアしました。山頂は狭く、雨降りのため記念写真を撮りすぐに下山です。鞍部にて食事を取り、雨も上がり雨具を脱いで鈴ヶ岳を越えて降りました。登りと道を変えて歩くと前橋市や榛名山が見えました。晴れていたなら素晴らしい眺めです。山肌には紅葉の名残がありました。途中ニホンジカの鳴き声を聞きました。繁殖期のオスの鳴き声だそうです。秋から冬への移への移り変わりを感じさせます。

14:03に駐車場につきました。天気が良ければ、見晴らしの良い山行ですので雲の勉強ができたと思いますが、あいにくの天気で出来ませんでした。これからの実技講座で教えてくださいたくことを期待しています。また、濡れて滑りやすい山行でしたが全員けが人もなく終了できました。講師の皆さん、受講生の皆さんご苦労様でした。



登山学校

第6回『天気の見方』百名山 赤城山 鈴ヶ岳 制覇

第18期登山学校受講生 古賀 和美 記

しばらくぶりの山行にワクワクする気持ちときちんと登れるかという不安の中、朝を迎えました。お弁当をつくり戦闘服である山の衣装に着替えてさっそうと出発。バスでの実技講習は、温泉のご褒美付きです。そして、サービスエリアでの食べ歩きも楽しみのひとつです。さっそく上里でメロンパンをゲット。美味しかった。

起点となる駐車場に着くとどんよりとした雨雲が今にも泣きだしそうです。前日の机上学習で学んだ雲が見られず残念に思いながら、何とか降らないでほしいと思うばかりでした。寒い時期の山行は、経験が少ないため着るものや帽子など悩む事が多かったのですが、風速1メートルで1度下がる。100m上昇するごとに0.6度下がるなど前日の予備知識が役に立ちました。体力がないために荷物の量にかなりこだわりがあるのですが、何とか寒い思いをせずに済みました。ただ、思いもよらず鼻水との戦いが顔面上ではじまり苦戦しました。寺田さんティッシュありがとうございました。みなさん、冬山はティッシュ多めがいいです。

登山口からしばらくは、頭の中でユーミンの『ひこうき雲』をBGMにゆるやかな登りをクマザサをかき分けながら順調にすすみました。その後のアップダウンは、毎回のことながら、ついていくのに必死で、足もとばかりを見ているので景色を楽しむ余裕など全くないのですが、界下に大沼の美しい姿を見た時に「あ～私は、山登りが好きだ。」と確信をしました。今回の山行は、登りと下りの繰り返しです。登りっぱなしも苦手なのですが、雨でしめった道を歩くのは難しくすべって4回ころびました。足もとばかり見ているせいか枝に頭をぶついたりと満身創痕の登山です。そして、いよいよ我ら4班が鈴ヶ岳へのアタックを開始。大きく息を吸い込んで登り始めるとロッククライミングの連続でした。そんな険しい状況の中、足を止めることなく頂上に到着したときの感動、達成感は、他の誰よりも大きいのです。私にとって登山とは、ただの山登りではなくて、無理かもしれないと思うところをクリアし限界を越えさせ、自分に自信を持たせてくれる不思議で大切な出会いでした。しかも、日帰りできる山でエベレスト並みの大きな達成感を味わえるのですから、何て安上がりな私・・・4班鈴ヶ岳アタック隊の皆様、特に駒崎運営委員、尾手運営員及び福島隊長大変お世話になりました。そして、12月もよろしくお祈りします。



ブロック活動報告

中部ブロック交流読図山行

御正体山

11月16日(土)大宮労山4名、ハイジ1名で好天の下、静かな山を楽しみました。

7:00上尾出発 川島ICから圏央、中央道で大月経由(河口湖方面へ)都留ICへ、そこからR139、鹿留林道などで池の平登山口駐車場へ。渋滞もあり、予定より40分ほど遅れて、9:40着。5~6台の駐車スペースがある。

池の平登山口駐車場10:00発。南東へ尾根を登ってP1235、そこから東北東へ尾根を登ってP1436、さらに東へ尾根を登って標高1590mで登山道に合流、御正体山着が13:45。帰りは北へ登山道をたどり、P1568へ、そこから西へ、さらに南に折れ、再び谷沿いを西へ向かい駐車場へ戻った(16:30)。

なお、一緒に行動予定だった日進山岳会の9名は、中央線の人身事故の影響で、到着が遅れて別行動になった。30分くらいの遅れで、同じコースを回ったとのこと。同じく、参加予定だった浦和山の会1名は、体調不良で不参加でした。(記:大宮労山 岡野和夫)



ブロック活動報告

南プロ「交流バスハイク」記

12月2日(日)快晴

今回は南部ブロック各会会員21名(三郷×14、わらび×4、あすなろ×2、彩の山友×1)と第18期登山学校受講生5名(未組織)のジョイントになる「忘年交流バスハイキング」でした。最初に一宮神社に立ち寄り、群馬百名山の「崇台山(そうだいさん)(299m)」に登り麓の「長学寺(ちょうがくじ)」を参拝し移動「甘楽道の駅」で下車して小幡武家屋敷等の歴史探訪後「甘楽町文化会館」に移動「甘楽の湯」で入浴後「交流忘年会」を楽しむコースでした。

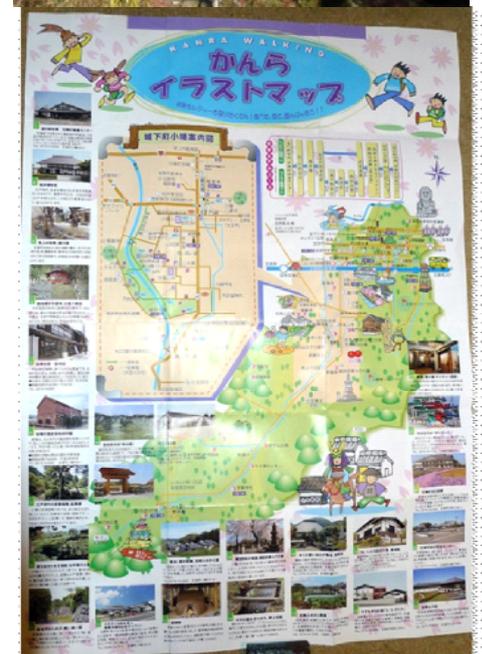
三郷駅06:30発のバスで南浦和駅07:00全員乗車と食材の積載で出発です。一路関越自動車道～上信越道で富岡IC下車、最初の訪問地は1400年の歴史を持つ『一之宮貫前神社』(いちのみやぬきさきじんじゃ)の参拝でした。下車後大鳥居に向かいますが大鳥居の先に神社が見えませんか? 近づくと「じえじえ」なんと下り階段があって道下に社殿が有るではありませんか。大抵の神社仏閣は高台か平地に有るはずですが初めて道の下に有る神社を見ました。国の重要文化財に指定されている社殿は江戸時代初期の漆塗りで極彩色の見事な彫刻等は、規模は小さいけれど日光の東照宮に負けず劣らずの細工で一見の価値がありました。神社から約30分位バスで移動、登山口近くにある下高尾の駐車場に着き軽いストレッチの後食材を分配して登山道の階段を3個班に分かれて登りました。秋の里山ののんびりしたコースで落ち葉を踏みしめて20分足らずで頂上到着です。頂上は360度の展望で上毛三山の妙義山、榛名山、赤城山と浅間山が遠望出来るパノラマでした。春には桜爛漫との事です。ここで昼食です。班毎に味噌汁作りです。現役主婦の活躍で具沢山(ネギ、人参、蒟蒻、油揚げ、豆腐、鮭)の粕汁が出来上がりました。美味しくいただきました。連絡不足でカップラーメンを持参者もいて汁物のみの昼食になってしまい反省です。1時間程展望と昼食を楽しみ下山です。

元来た道から右に折れて10分も歩くと麓の「長学寺」に到着です。当寺には群馬県指定文化財の「梵鐘」(太平洋戦争中供出を免れた鐘)、富岡市指定天然記念木「虎御前の大銀杏」、富岡市指定史跡「前田家墓所」があり、霊廟には二代・三代・五代・六代・十代藩主らが眠っています。大銀杏の落ち葉の絨毯を踏みしめ見学・墓参を済ませ再び車中の人となり、「甘楽道の駅」で下車、「かんらイラストマップ」を片手に小幡の城下町の風情が残る町並みを松井家住宅、大手門跡、小幡八幡宮と所々に時代劇に出てきそうな武家屋敷の見事な塀のある歴史の残る屋敷町を2時間かけて散策しました。

再度バスの人となり「甘楽町文化会館」に到着です。湯に浸かったあと大広間で持ち込みのお酒と料理で「忘年会」を2時間ぐらいわいわい賑やかに過ごし、お腹も気分も膨れて大満足で帰途に着きました。

南プロの行事に参加された受講生の皆さん有難うございました。企画と食材等を準備した沢藤さんお疲れ様でした。お陰様で楽しい交流会ができました。

(南プロ委員 M)



自然保護

石巻災害支援に参加して

新座山の会 T・K

期 日 2013年10月19日(土)~20日(日)前夜発 参加・埼玉労山会員19名
初めて労山の災害支援に参加して、宮城県石巻谷川浜(やがわはま)という所へ行ってきました。

10月18日夜22時東上線「ふじみ野駅」西口から各会の参加者が1台のバスにそれから南浦和駅西口へそこでまた他の会の人達が乗り19名で23時頃出発しました。東北自動車道から仙台を通り、石巻ICを出て谷川浜についたのが19日6時ごろでしょうか。テレビなどで津波の様子は何回も見ていましたが、実際に現地に来てみて、もう三年近く過ぎているのに、まだどこも手が付けられてなく少しもよくなっていないなあ・・・とショックでした。着いた現地には、



前は家が立ち並んでいたであろう辺り一面広野原になっており、その中にポツンとガソリンスタンドが立っているだけで、道路が一本通っており、私たちはその横の所で作業をしたのですが、小屋が2つ建っており、はるか向こうの方には海が広がっていました。地元の馬場さんというホヤ養殖組合副組合長の方が朝水揚げしたばかりのさんまを沢山もってきて、早朝なのに外の水道の所で千葉の方達とさんまを開いてお刺身を作って下さりご馳走になりました。とても脂がのっていておいしかったです。8時30分頃お手伝いする所の渥美さん(宮城県漁業組合谷川支所運営委員長)と奥様が見えられ作業の説明をして頂き、ホヤの養殖に使うという牡蠣殻を使えるものと使えないものを選別する作業とその分けた牡蠣殻に、小さなドリルで真ん中に穴を開けそこに紐を通す作業と3組に分かれてしました。10時頃はお茶やお菓子、みかんなどをいただいてお休みし、お昼休みをはさんで3時頃までお手伝いをして渥美さんご夫婦と別れを惜しんで、私達はバスに乗り今夜の宿へ、途中牡鹿のれん街に行き、皆海産物などを買物する。民宿「あたご荘」は海の近くにあり、宿は流されたが大工さん達など多くの人達がボランティアできてくれて宿がようやく出来上がったという。木の香りも新しい民宿でお料理も沢山、海の幸が食べきれないくらいありおいしかった。今日1日寒いかなと思ったが、あまり寒くなくよかった。食事のあと千葉県連の方達が宿泊している近くの「後山荘」に交流会があるということで皆で行く。今日お世話になった渥美さんや馬場さん達漁師さん達がいらして、少しずつだけど海の仕事もできるようになってきつつあるというお話を聞きました。そして渥美さんの奥様のきれいな日本舞踊も見せて頂きました。20日はあたご荘八時頃発で女川町の被災地を見せて頂き、先生や児童74名が亡くなった大川小学校にも行きました。まだ学校はそのまま残されており、多くの人達が手をあわせに訪れていました。埼玉労山の方達も多くの人は何回も被災地に支援にきているので、バスで

通るとあああの辺りは、この前きた時より少しはよくなっていると皆さん話していました。南三陸町の方でも、町が無くなり広い野原となってその中にポツンと赤茶けた3階建ての鉄骨だけ残っている元防災センターなど、まだまだ沢山の被災地を見せて頂きましたが、どこもまだまだ手のつけられていない所が多く胸の痛む思いでした。そうしてお昼は南三陸さん(・・・)さん(・・・)商店街で皆とおいしく頂きました。お昼をすませて外に出ると雨が降ってきました。今回いろいろお世話してくださいました千葉労山の方々本当にありがとう御座いました。



遭難防止・安全教育

安全登山講演会 報告

日時 2013年11月24日(日) 13:30~16:00

場所 大宮 高鼻コミュニティセンター

講師 金邦夫氏(元警視庁青梅署山岳救助隊副隊長)

題目 「山岳遭難事故事例に学ぶ死なない為の教訓」

参加団体：山遊会ビスタ・リ、大宮労山、埜歩歩富士見山の会、新座山の会、秩父アルペン、わらび山の会、熊谷トレッキング、三郷山の会、峠山の会、ハイジアルペンクラブ、山なみハイキングクラブ、ハイキングクラブ上里、くまざさ山岳会、北本山の会、登山学校15団体 62名

最初にDVDにて奥多摩での山岳救助の実態を視聴し、金講師の奥多摩での救助活動から実体験をもとにたくさんの遭難事故例をおもしろおかしく、みなさんがよく行く奥多摩でも遭難事故が多いこと、又危険箇所を指摘して頂きとても参考になったと思う。

登山者のプライドが重要、男性の単独行での遭難事故が多い。これからもこういう講演会を通して安全登山の啓発をしていきたいと思えます。(記 尾手)

